

<米国名門大学学費> \$1 = ¥150 = 7.5中国元 (およその送金レート) で計算

## HARVARD

Harvard ビジネススクール	1年間授業料	US\$74,910	¥11,236,500	561,825	中国元
Harvard 法科大学院	1年間授業料	US\$73,600	¥11,040,000	552,000	中国元
Harvard 医学大学院	1年間授業料	US\$69,300	¥10,395,000	519,750	中国元
Harvard 教育学大学院	1年間授業料	US\$57,246	¥8,586,900	429,345	中国元
Harvard 大学	1年間授業料	US\$54,269	¥8,140,350	407,018	中国元

## FORDHAM

Fordham 大学	1年間授業料	US\$60,335	¥9,050,250	452,513	中国元
Fordham 教育学大学院	1年間授業料	US\$26,512	¥3,976,800	198,840	中国元 …①

上記に加えて、下記の博士課程関係費がかかります。

Dissertation Format Review (1回当たり)	US\$551	¥82,650	4,133	中国元	…3回ぐらい必要
口頭試問 (1単位時間当たり)	US\$1,638	¥245,700	12,285	中国元	
博士論文セミナー (3単位時間当たり)	US\$4,914	¥737,100	36,855	中国元	…数回必要
総合試験料	US\$1,657	¥248,550	12,428	中国元	
小計	US\$8,760	¥1,314,000	65,700	中国元	…② (最低の追加費用)
	①+② =	¥5,290,800	264,540	中国元	

「米アイビーリーグ学費、次年度は年間9万ドル (\*1350万円=675000中国元) に迫る勢い」

米大学の学費が上昇の一途をたどっている。北東部名門私立大8校「アイビーリーグ」の次年度の学費は年間で9万ドル (\*約1350万円=675000中国元) に迫る勢いだ。エール大学は4%、ダートマス大学とブラウン大学は5%の値上がりとなる。

(中略)

アイビーリーグは何年にもわたって学費が高騰してきた。エール大学では授業料と部屋代、食事代を合わせた費用が2011年に5万ドル、15年に6万ドル、19年に7万ドルに達し、22年には8万ドル (\*約1200万円=600000中国元) を突破した。ペンシルベニア大学、ダートマス大学、コロンビア大学、ブラウン大学も22年に8万ドル (\*約1200万円=600000中国元) の領域に入った。

(引用: ブルームバーグ 2023/3/29記事) \* \$1 = ¥150 = 7.5中国元 (およその送金レート) で再計算

<米国大学の授業料>

州立総合大学	約\$24,000~\$50,000/年 (* 年360~750万円=年18万~37.5万中国元)
私立大学	約\$42,000~\$75,000/年 (* 年630~1125万円=年31.5万~56.25万中国元)

(引用: NCN米国大学機構) \* \$1 = ¥150 = 7.5中国元 (およその送金レート) で計算

### <卒業証書（学位）の価値>

米国の名門私立大学の入試が難しく、卒業するのに入試にかかる努力のさらに2.5倍の努力を常にしないと卒業できないし、落第する。また、授業料がこんなに高いのになぜ人気が高く、学生が世界中から集まるのか。卒業証書（学位）に価値があり、就職がよくて元が取れておつりがくるぐらいだからである。特に、米国の博士とか、MBAとか医者・弁護士資格を取得した場合、エリートになり、豊かな生活ができるようになる。

東京福祉大学では、米国の大学の卒業証書（学位）の価値を目指して、公務員試験対策講座や教員採用試験対策等を充実させ、学力を身につけさせ、学生が未来に豊かな生活を送れるよう努めている。

### <米国の名門大学の授業料が高い理由>

米国の名門大学ではなぜ授業料が高いのかというと、大きく2つの理由がある。一つは、より優秀で有名な教授を雇い続けて、より良い教育を提供し、より良い学生を獲得し輩出するため、教授により高い給料を払い続ける必要があるからである。大学がより良い教育を提供するためには、名門一流大学を出て博士号を取得した優秀な教授が必要であるが、努力を重ねる優秀な教授はより高いレベルの論文を発表し、元を取るべく自分にふさわしい、より良い大学に転職していく。大学はそうした教授の力を得て教育システムや研究力のレベルを上げていく。それがアメリカの競争社会の仕組みなのである。優秀な教授がもっと高い給料を提示する大学に移ってしまう傾向があるため、良い教授を雇うために大学の授業料が上がるのである。教授への高額な給与支払いが、将来が約束される学生を鍛え上げる様々な教育システムを下支えしているのである。また、ノーベル賞やそれに準ずる国際的な賞を取得し、もしくは取得しそうな教授を米国国内のみならず世界から集めてつなぎ止めることも、大学の魅力をさらに上げ有名にし、学生を獲得するには必要であり、高額の人件費が必要となる。

二つ目の理由は、貧しい家庭の出だが極めて優秀な学生を入学させるために、その奨学金分を一般学生から高い授業料として受け取り、より多くの優秀な学生に奨学金を支給する必要があり、そのため授業料が高くなっていく。いわば、貧しい家庭の学生へ奨学金を払う資金を裕福な家庭の学生からより多く得て、優秀な学生をさらに多く輩出し卒業させていくのである。

その他の理由として、日本の大学のように入学試験を主に日本語で行うのとは異なり、英語で入学試験を行うことにより、世界的に優秀な学生を入学させることができるという競争力の高さが教育システムの質を高め、授業料を高く支えている。

米国の名門大学は高い授業料でありながら、経営の自由、大学の自治を享受し、好循環で成長し続け、日本の大学よりはるかに高い評価を得る現状を生み出している。